

ラオス

2020年11月25日
海外調査部・ビエンチャン事務所

2019年のラオスはメガプロジェクトの建設や観光に支えられたが、天候不順が農業や水力発電に大きく影響し、アジア開発銀行（ADB）によると実質GDP成長率は5.0%となった。貿易では輸出の大きな比重を占める電力輸出が5.8%減、鉱物輸出が3.9%減と低迷した。他方、中国との貿易が大きく伸び、輸出では木材・木製品、輸入では設備や資材輸入が引き続き貢献し、全体の31.0%を占めた。対内直接投資も中国からの投資が66.7%増と旺盛である。投資業種も従来のインフラ、不動産、卸・小売から農業セクターへ、多角化が進んでいる。

■天候不順により農業がマイナス成長に

ADBによると、2019年の実質GDP成長率は5.0%と前年の6.2%から減速した。セクター別成長率は農業がマイナス2.0%、工業が4.1%、サービスが7.2%となり、農業がマイナス成長に落ち込んだ。平均降水量の半分程度という重度の干ばつと、熱帯低気圧による局地的な洪水や全国18県57郡に感染が拡大したアフリカ豚熱が影響した。主要農産物であるコメ(粳)の生産量も前年比7.6%増の353トンであったものの、2年連続で計画440万トンを大きく下回った。

工業のうち主要産業である電力では、関西電力が出資するナムニアップ1ダム（発電容量290MW）ほか12の発電所が商業運転を開始し、全国の発電所は73カ所（9,503MW）に拡大した。一方で干ばつにより貯水が十分に確保できず2019年の電力生産量は3万498ギガワット時（Gwh）と前年比で11.4%の減少となった。

他方、建設業が工業成長を牽引し、中国ラオス鉄道の建設が2019年末までに全体の83%の進捗に達した。また、ビエンチャンとそこから北に130キロのバンビエンを結ぶ高速道路は、12億ドルの投資で建設が進み、2020年12月の開通を目指し建設が本格化した。その他、発電所やコンドミニアム・商業ビルなどの大型事業の建設が進んでいる。

サービス業は引き続き堅調で、特に観光業では外国人観光客の訪問が471万人（前年比14.4%増）となった。2019年は「ラオス中国観光年」として重慶、南寧、泉州などからラオスへのフライトが運航し、観光促進キャンペーンが行われ中国人観光客は102.2万人（26.9%増）と目標の100万人を達成した。

ラオスは2020年3月下旬に新型コロナウイルスによる初の感染者が確認された後、4月には強いロックダウンが取られた。結果、2020年9月までの累積感染者数は23人に抑えられ感染対策は成功しているが、入国・国内移動制限を含む感染防止策による経済的な影響は大きく、世界銀行は2020年のGDP成長率をマイナス1.8%にまで落ち込むと推計している。工場停止や国境封鎖によるサプライチェーンの混乱、観光業の大幅な落ち込み、最大25%ともされる失業率の上昇、税収の低下による財政赤字の拡大と対外債務の膨張など、さまざまな面で問題が顕在化している。

■電力輸出は振るわず、中国からの設備・資材輸入が増加

2019年のラオスの貿易統計は未発表のため、主要貿易相手国・地域の輸出入データに基づき試算すると、同年の輸出額は59億6,800万ドル（前年比10.1%増）、輸入は67億4,700万ドル（2.1%増）で、貿易赤字は7億7,830万ドル（34.6%減）となった。

輸出を品目別にみると、鉱物・電力は29億5,400万ドル（1.6%減）であった。深刻な干ばつが水力発電に大きく影響し、エネルギー鉱山省によると電力輸出は2万4,399GWh（10.4%減）、商工省によると輸出額は13億2,686万ドル（5.8%減）となった。また、商工省によると鉱物輸出は14億2,324万ドル（3.9%減）で、銅・銅製品が10億3,184万ドル（12.8%減）となった。農林省によると、農畜産物・食品については、天然ゴムが増産により輸出額が1億7,378万ドル（14.2%増）となった一方、干ばつや洪水の影響を大きく受け、バナナ（1億5,382万ドル、26.6%減）、コーヒー（3,687万ドル、47.3%減）、キャッサバ（3,653万ドル、10.2%減）、トウモロコシ（2,165万ドル、65.4%減）などの主要品目は軒並み減少した。コメは生産が伸び悩んだことから市場では供給不足で価格が高騰、その影響を受け輸出は760万ドル（56.4%減）に落ち込んだ。木材・木製品の輸出は5億4,500万ドル（27.5%増）だった。2016年から未加工・半加工木材の輸出禁止策が続いているが、2018年から徐々に輸出可能な製品リストが整備されたことで、輸出は増加傾向だ。特に中国向けが4億5,700万ドルと全体の83%を占めた。ユーカリ等を原料とするパルプの輸出は2億6,790万ドル（208.7%増）で、うち中国向けは2億6,790万ドル（114.7%増）であった。

輸出を国・地域別にみると、1位のタイは25億6,900万ドル（2.2%減）で電力や農産物輸出の減少が影響した。2位の中国は21億6,000万ドル（32.2%増）でキャッサバなどの農産物や家畜や木材パルプが増加した。3位はベトナムとなっており、上位3カ国で87.0%を占めた。日本への輸出は1億5,900万ドル（2.0%増）で、主要品目のうち縫製・靴製品（7.0%増）、電子機器（3.1%増）が増加した一方、コーヒー、木材製品が減少した。特にコーヒーは、2,206トン（61.0%減）、5,638万ドル（69.7%減）と大きく減少した。

輸入を品目別にみると、構成比で2割強を占める機械・部品が14億7,700万ドル（0.7%減）と減少し

表1 ラオスの主要品目別輸出入〈主要貿易相手国・地域通関ベース〉
(単位:100万ドル、%)

	輸出 (CIF)				輸入 (FOB)				
	2018年		2019年		2018年		2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
鉱物・電力	3,001	2,954	49.5	△1.6	機械・部品	1,487	1,477	21.9	△0.7
木材・木製品	427	545	9.1	27.5	化石燃料・電力	1,023	891	13.2	△12.9
農畜産物・食品	557	476	8.0	△14.6	車両および部品	674	600	8.9	△10.9
縫製品	321	357	6.0	11.3	農畜産物・食品	1,017	1,072	15.9	5.4
その他	1,114	1,637	27.4	46.9	鉄鋼	616	707	10.5	14.7
					その他	1,792	1,999	29.6	11.5
合計	5,420	5,968	100.0	10.1	合計	6,610	6,747	100.0	2.1

[注] EU28、米国、オーストラリア、中国、香港、韓国、台湾、日本、シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの対ラオス輸出入統計を合算。FOBとCIFの調整はしていない。

[出所] グローバル・トレード・アトラスを基にジェトロ作成。ベトナムはベトナム財務省税関総局の統計に基づき算出。

表2 ラオスの主要国・地域別輸出入〈貿易相手国・地域通関ベース〉
(単位:100万ドル、%)

	輸出 (CIF)				輸入 (FOB)			
	2018年		2019年		2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
アジア大洋州								
日本	156	159	2.7	2.0	134	96	1.4	△28.3
中国	1,633	2,160	36.2	32.2	1,394	1,788	26.5	28.3
香港	41	31	0.5	△23.9	25	21	0.3	△19.2
台湾	15	13	0.2	△10.7	6	9	0.1	59.3
韓国	30	39	0.7	29.9	84	75	1.1	△10.2
ASEAN								
タイ	2,628	2,569	43.0	△2.2	4,091	3,838	56.9	△6.2
ベトナム	437	462	7.7	5.7	595	702	10.4	18.0
シンガポール	9	8	0.1	△2.1	44	53	0.8	22.5
マレーシア	7	10	0.2	38.8	10	8	0.1	△20.3
フィリピン	10	4	0.1	△55.8	3	1	0.0	△59.7
オーストラリア	17	18	0.3	3.1	20	19	0.3	△4.2
EU28	297	349	5.8	17.3	188	119	1.8	△36.9
米国	142	148	2.5	4.1	16	17	0.3	6.3
合計	5,420	5,968	100.0	10.1	6,610	6,747	100.0	2.1

[注] EU28、米国、オーストラリア、中国、香港、韓国、台湾、日本、シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの対ラオス輸出入統計を合算。FOBとCIFの調整はしていない。

[出所] グローバル・トレード・アトラスを基にジェトロ作成。ベトナムはベトナム財務省税関総局の統計に基づき算出。

たが、引き続き中国ラオス鉄道、高速道路、発電所等の建設に伴う設備の輸入が続いている。化石燃料・電力は8億9,100万ドル(12.9%減)であった。電力は干ばつによる貯水不足で輸入が1,345GWh(347%増)、5,775万ドル(276.3%増)と大幅に増加した。商工省によると、化石燃料の輸入は7億3,760万ドル(4.6%減)であった。車両および部品は6億ドル(10.9%減)と4年連続で減少した。

輸入を国・地域別にみると、タイ、中国、ベトナムの上位3カ国が93.8%を占めた。特に中国は17億8,800万ドル(28.3%増)で、機械・部品類が4億5,400万ドル(67.8%増)、鉄鋼が3億8,800ドル(50.2%増)と大型プロジェクトに伴う輸入が大きく貢献した。日本からの輸入は9,600万ドル(28.3%減)であった。主要品目は自動車3,600万ドル(36.7%減)、機械1,400万ドル(15.8%減)、縫製原料1,300万ドル(9.6%増)である。

■中国からの大型投資が続く

商工省によると、2019年の対内直接投資額(登録ベース、自国投資含む)は121億2,200万ドル(32.9%減)であった。業種別では卸・小売・車両修理が4.0倍、製造業が3.2倍、電力・ガスが10.9倍と大きく増加した。国別にみるとラオス、中国、タイ、ベトナムの上位4カ国が91.9%を占めた。

中国からの投資は引き続き旺盛で、大型事業ではナムグム1ダム水面太陽光発電(1,200MW)、ラオス中部サイソムブン県の鉄・銅鉱山開発のほか、レアアース探査やフルオライト採掘などの投資がみられた。農業セクターへの投資は多様化しており、ドラゴンフルーツやドリアンなどの熱帯果物栽培への投資がみられたほか、医療用大麻栽培への初期調査がスタートした。また、中国の牛肉需要の高まりを受け、畜産への投資も増加している。さらに、中国ラオス鉄道の北部の拠点となるポーテンSEZでは教育医療産業区が、ビエンチャンのサイセター総合開発区(SEZ)では大型製薬工場の建設が開始された。

なお、日本からの直接投資はタイなど第三国の日系企業を経由した投資が中心で4,000万ドルとなった。日本企業においても進出業種の多様化が進んでおり、製造業のSEZへの投資の他に、空港免税店、不動産開発、昇降機販売、ICT、化石燃料小売などの進出があった。在ラオス日本国大使館によると、ラオスへの進出日系企業数は約160社となった。

表3 ラオスの国・地域別対内直接投資
(登録ベース、グロス)

(単位:100万ドル、%)

	2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率
アジア大洋州	17,916	11,562	95.4	△35.5
日本	2	40	0.3	1919.6
中国	2,751	4,587	37.8	66.7
韓国	75	68	0.6	△9.8
ASEAN	15,062	6,685	55.1	△55.6
ラオス	13,311	4,336	35.8	△67.4
タイ	1,223	1,477	12.2	20.7
ベトナム	414	741	6.1	79.1
マレーシア	64	75	0.6	17.4
カンボジア	41	38	0.3	△7.0
シンガポール	6	16	0.1	155.9
インド	5	15	0.1	206.3
オーストラリア	21	167	1.4	698.3
EU28	14	542	4.5	3649.6
フランス	4	497	4.1	14034.8
スウェーデン	0	34	0.3	全増
北米	76	8	0.1	△89.0
米国	14	8	0.1	△41.3
合計(その他含む)	18,075	12,122	100.0	△32.9

[注] アジア大洋州は、ASEAN+6(日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド)に香港、台湾を加えた合計値。

[出所] 商工省企業登録管理局

表4 ラオスの業種別対内直接投資
(登録ベース、グロス)

(単位:100万ドル、%)

	対内直接投資			
	2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率
卸・小売、自動車修理	916	3,733	30.8	307.7
製造業	587	1,856	15.3	216.2
電力・ガス	150	1,639	13.5	991.2
農林業	1,029	1,262	10.4	22.6
建設	2,306	1,082	8.9	△53.1
金融保険	10,569	511	4.2	△95.2
鉱業	984	509	4.2	△48.3
不動産	243	292	2.4	20.0
ホテル・レストラン	384	276	2.3	△28.2
科学技術	122	239	2.0	96.7
運輸・倉庫	101	229	1.9	127.2
サービス管理	164	197	1.6	20.3
情報通信	311	117	1.0	△62.3
教育	12	40	0.3	234.5
その他	198	140	1.2	△29.6
合計(その他含む)	18,075	12,122	100.0	△32.9

[注] ラオス企業による対内投資を含む。

[出所] 商工省企業登録管理局

主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口：712万人 (2019年)			
②面積：23万6,800km ²			
③1人当たりGDP：2,535米ドル (2019年)			
④実質GDP成長率 (%)	6.9	6.2	5.0
⑤消費者物価上昇率 (%)	0.83	2.04	3.28
⑥失業率 (%)	9	9	9
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△1,905	△1,190	△778
⑧経常収支 (GDP比 (%))	△14.0	△13.0	△9.5
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	1,089	944	1,068
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	15,766	16,732	17,073
⑪為替レート (1米ドルにつき、 リエル、期中平均)	8,245	8,401	8,679

〔出所〕 ①②⑤：ラオス計画投資省統計センター、③：世界銀行、④⑧⑩：アジア開発銀行、⑥：ラオス労働社会福祉省、⑦：グローバル・トレード・アトラス、⑨⑪：IMF

(お問い合わせ先)

海外調査部 アジア大洋州課

ORF@jetro.go.jp